七戸町立 鷹山宇一記念美術館

第17号
【平成11年12月15日】

SUPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858　FAX 0176-62-5860

鷹山宇一先生を偲んで
七戸町民葬で最後の別れ

去る10月25日午後2時13分、播種性血管内凝固症候群のため東京都世田谷区内の病院で逝去された鷹山宇一先生の七戸町民葬が、鷹山先生の91回目の誕生日にあたる12月10日、七戸町立鷹山宇一記念美術館においてしめやかに営まれました。

七戸町・(財)鷹山宇一記念美術振興会・鷹山家合同の実行委員会主催で執り行われた「町民葬 七戸町名誉町民 故 鷹山宇一氏を偲んで」には、故人ゆかりの美術館関係者や友の会会員を始めとする多くの町民など約350人が参列し、故人の愛したバラを遺影に捧げて別れを告げました。

数々の作品が掲げられた会場で、故人の愛したバラの花に囲まれた鷹山先生の遺影

鷹山宇一先生の通夜および葬儀は故人のご遺志により、10月27・28日に東京都において親族のみの密葬により行われました。

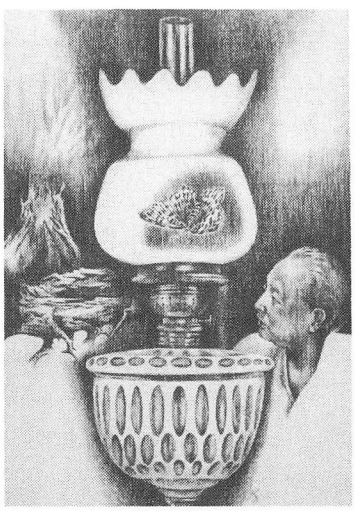
11月3日にご遺族とともに、(社)二科会を代表して評議員の中山三郎先生・会員の森岡謙二先生が七戸町においでになり、先生の菩提寺である七戸町の瑞龍寺での法要にご参列されました。

翌11月4日から14日までの11日間、美術館は無料開館となり弔問においでになる方々の献花を受け付けました。二科会の先生方もご滞在中美術館において二科会を代表して、ご遺族とともに来館された皆様にご挨拶をされました。

この間先生方とのお話を通じて、鷹山先生とのご交遊の思い出、先生のお人柄を思い起こさせるエピソードの数々を伺うことができました。

森岡先生は帰京後、鷹山先生との思い出を描いた素描を美術館にお寄せになりました。現在、美術館の館長室に掲げられております。

なお、この11日間に1千人以上の方が美術館を訪れ、鷹山先生の遺影に献花をされ、記帳を残されました。多くの方々の弔意に改めまして御礼申し上げます。


森岡謙二先生制作の素描

12月10日午前10時より美術館において執り行われた七戸町民葬では、鷹山先生の永年の創作活動の結晶である数々の作品が飾られた会場に、秋山庄太郎先生撮影の遺影が掲げられ、地元七戸町産の白バラで囲まれました。

また当財団理事の吉野毅先生が制作された鷹山先生のデスマスクが会場に置かれ、参列者の思い出を誘っていました。

先生のお孫さんにあたる廣田有布さんのピアノ独奏(バッハ作曲「主よ人の望みの喜びを」)に続き遺族が入場し、福士七戸町長(偲ぶ会実行委員長)が追悼の言葉を捧げました。

引き続き弔辞・弔電が奉読された後、同じく先生のお孫さんにあたる片山美緒さんがグノー作曲「アベマリア」を献唱しました。

遺族を代表して鷹山ひばり館長が挨拶を述べ、会葬者は先生ゆかりの白バラを霊前に捧げて最後の別れを告げていました。

偲ぶ会の会場で献唱をする鷹山先生の二人のお孫さん
片山美緒さん(独唱)、廣田有布さん(ピアノ)

町民葬　七戸町名誉町民
故　鷹山宇一氏を偲んで
平成11年12月10日　鷹山宇一記念美術館

鷹山宇一画伯を偲ぶ会に参列されたご友人、関係者、そのほか各界の方々から多くの追悼のお言葉や、弔辞を頂きました。この場をお借りいたしまして、謹んでご披露申し上げます。

■追悼の言葉■

七戸町長　福士孝衛

本日ここに、ご遺族の皆様を始め、各界を代表されます多くの方々並びに町民各位のご参列のもと、七戸町名誉町民、故鷹山宇一先生の町民葬をとり行うに当たり、謹んで追悼のことばを申し上げます。

先生は、明治41年、七戸町にお生まれになり、七戸尋常高等小学校に入学されました。当時教壇に立っておられた若き歌人青山哀囚先生と出会い芸術への関心を高められ、旧制青森中学校では棟方志功氏と出会い、日本美術学校在学中の第17回二科展で初入選されました。そして、若手前衛画家として芸術文化運動に参画されたのであります。戦後、二科会の再建に際して東郷青児氏の呼びかけにより、二科会の会員に復帰され、天性の才能を遺憾なく発揮され大変なご努力と情熱を持って優れた作品を次々と発表され、内閣総理大臣賞や青児賞を受賞される一方、二科会の理事として日本文化、画壇の振興発展にも大きく寄与され、昭和39年青森県褒賞を受賞されました。平成2年には、町では全町民の推挙により七戸町名誉町民に推戴申し上げたのであります。

近年は、デーリー東北賞や東奥日報賞特別賞の受賞、二科会の名誉理事にご就任されるなど、今なお、お元気に充実した作品を描いておられましたのに、突如としてご逝去されたとの報に接し、がく然とし言葉もございませんでした。誠に痛恨の極みであります。

先生は、七戸町の宝でありました。独自の幻想世界を表現する先生の透明感あふれる作品は、彩り華やかな花束や戯れる蝶とともに私たちを豊かな幻想の世界へと導いてくれました。

先生の偉大なご功績を顕彰し、町では平成六年に先生のお名前をいただいた「鷹山宇一記念美術館」を開館いたしました。

例年になく大変暑い夏の日、8月1日に行われた開館式典には、青森県知事を始め各界代表の皆様方、多くの町民の方々が出席され、記念美術館の開館を盛大にお祝いいたしました。

追悼の言葉を読み上げる福士孝衛七戸町長

先生には、ご高齢にもかかわらず、ご臨席を賜り、お元気な笑顔を見せてくださったのが、つい先日のように思い出され、思えば胸の熱くなるのを覚えるところであります。

あれから5年の歳月が流れました。

その間、記念美術館は、七戸町民に美意識の向上と芸術に接する素晴らしい機会を与えてくれました。また、県内外からも多くの方々が訪れるなど、県下の芸術・文化の中心的役割を果たしてまいりました。できることならいつまでもご健在であられ、お力添えをいただきたいと思っておりましたのに、去る10月25日、突然の先生の訃報に接し、町民はじめ関係者等しく哀惜の情きわめて大きく、気落ちをいたしておるところであります。

今はただ、先生の残された幾多の偉大なご功績を大切にし、後世に受け継いでまいりたいと思います。

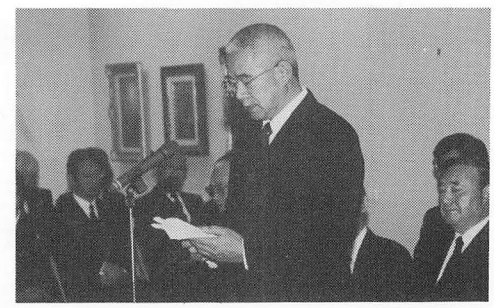
ここに町民葬の儀に当たり、先生に弔意をささげるためにご参列の多くの方々とともに、在りし日の先生を偲びひたすらご冥福をお祈りして、お別れのことばといたします。

■弔辞■

七戸町議会議長　田島政義

七戸の霊峰八幡岳の峰白く、冬の厳しさが身にしみる本日、ここに町民葬名誉町民故鷹山宇一先生を偲ぶ会が挙行されるにあたり、町議会を代表して謹んでお別れの言葉を捧げます。

さる10月25日、先生のご逝去の報に接し、とるものもとりあえず町長さんと共に先生の密葬に出席させていただきました。密葬の会場で、病により入院される直前までアトリエで絵筆を握っておられたことをお伺いし、先生の絵描き魂を垣間見る思いと、信ずる道を歩まれた先生の絵描き人生に深い感慨を覚えるとともに、胸を打つものがございました。


弔辞を読み上げる　田島政義七戸町議会議長

また、先生が卒寿展に寄せたご挨拶の中で「若いときの蓄えが、血となり肉となって、90歳の私の仕事を支えてくれているのです」そして「絵筆一本の正々堂々の人生」と書かれておられます。

私はこの先生のお言葉は正に「人生の範」として肝に銘じて置かねばならない言葉として共感し、このように言い切る先生の生き方に心から深い敬意を表する次第であります。

思えば、平成6年8月1日に先生のお名前を冠した美術館をオープンさせて頂きました。

先生からご寄贈頂いた作品やランプのコレクションの展示を中心としながら、これまで春季二科展を始めとする様々な企画展を開催し、今日では全国各地から入館者が訪れるなど、美術館の評価は益々高まり、私どもにとって七戸町に鷹山宇一記念美術館ありと、大きな誇りであります。

特に今年は、先生の長女でいらっしゃいます「ひばり」さんを美術館の館長にお迎えすることができました。これまでの二科会事務局での経験と人脈、豊かな

感性と学識を美術館の館長としての役割に活かしておられます。全国の美術館との交流も生まれてきていると聞いております。

どうか、先生にはこの美術館の行く末にご安心頂きたいと存じます。私どもも館長を中心に大いに盛り上げて参ります。

先生のお名前は、この美術館とともに永く語り継がれることでありましょう。

私どもは、今後とも先生の心血を注いで築かれた多くの業績を立派に引き継ぎ、より一層郷土の芸術・文化の創造発展につくす決意でございます。

いま、この御霊前にありし日の温容を仰ぎつつ、哀悼の意を捧げ、生前のご功績に対して敬意と感謝の念を表しつつ、お別れの言葉と致します。

青森県知事　木村守男

去る10月25日、ふるさとの山々の紅葉が美しい季節、先生は静かに逝かれました。

ここに謹んで、七戸町名誉町民故鷹山宇一先生に弔辞を捧げ、深く哀悼の意を表します。

ふるさと青森県をこよなく愛された先生の突然のご逝去の報に接し、万感胸に迫り、深い悲しみを禁じ得ませんでした。

永年にわたり、先生と苦楽をともにされたご遺族をはじめ、関係の皆様の悲しみを思うとき、お慰めの言葉もございません。

先生が好んで描かれた花と蝶は、先生の絵画の代名詞とさえいわれ、その夢のような静謐な世界は、我々に精神の深淵を連想させてくれました。

顧みますれば先生は、その90年の生涯において、画業に無限の情熱を傾けられ、独自の幻想的な世界を築きあげ、日本におけるシュールレアリスムの旗手として、日本洋画界に次々と新風を吹き込み、数々の賞を受賞されました。

そのご功績から、昭和39年には青森県褒賞、平成2年には七戸町名誉町民に輝かれ、平成6年には先生のご功績を末永くふるさと七戸町に伝承されることを願い、先生の名を冠した美術館が開館するなど、その栄誉の数々は枚挙に暇がないほどであります。

今改めて先生の足跡を顧みますれば、一筋の道を歩む人の美しい姿がありました。

私たちは、先生からひたむきな人間の生き方を学びました。そして、先生の画業の中に限りない郷土愛、そしてふるさとの山河を思わずにはいられません。

青森県は今、変革の時代を迎えております。

私は、21世紀のふるさと青森の夜明けを前にして、志を持って目標を定め、県民の幸せを第一に考えながら県政を担っております。

昨年、文化の薫り高い県づくりを目指し「文化観光立県」を宣言しました。先生には、より一層のご活躍とご指導をいただきたいと思っていただけに、お別れすることは誠に残念でなりません。

先生が残された神秘的で詩的な作品の数々は、観る者の心をとらえて離さず、時代を超えて人々に永遠に愛され続けることでしょう。

悲しくも幽明境を異にした今、在りし日の先生の御遺徳を偲び、ひたすら安らかなるご冥福をお祈り申し上げます。

心静かにお眠り下さい。

ご遺族、ご関係の皆様にご加護の情賜らんことを願い、弔辞といたします。

【青森県営農大学校長　三上　巽氏代読】

木村守男県知事の弔辞を代読する
県営農大学校校長三上巽氏

友人代表　七戸町名誉町民　槇　哲夫

謹んで敬愛する鷹山宇一画伯の御霊前にお別れの言葉を申し上げます。

あなたとは、共に明治41年に生まれ小学校で大正デモクラシーの最中、青山哀囚先生の御薫陶を受け七戸を巣立ちました。青森中学時代は、一時期同じ寄宿舎で生活した、いわば竹馬の友でした。

その後道こそ違い励まし合いながら大正、昭和、平成と90年の人生を歩んで参りました。

私が弘前大学付属病院長に就任した際、当時すでに二科会で重きをなしていたあなたが丹誠こめて描いた名作「追憶」を贈って下さった時の喜びは未だに忘れることができません。又体調をくずして仙台の大学病院を訪ねてきたこともありました。

お互い多忙な中、いくたびか親友交歓の一時をすごした日々が懐かしく思い出されます。

今あなたの訃報に接し、誇りにしていた友人を失って哀惜ひとしおなものがあります。

画家として独自の世界を切り開き画壇に大きな足跡を残した宇一さんの、生前のご活躍を讃え遙かにご冥福をお祈りいたします。

【槇　猛夫氏代読】

槇哲夫氏の弔辞を代読する
実弟の槇猛夫氏

鷹山宇一記念美術振興会　理事長　青山浄晃

故二科会名誉理事鷹山宇一画伯を偲び生涯カンバスに向かい彩管を揮って蝶と花を愛で奥深い沈潜のブルー緑の世界を追求した先生はこよなく七戸を愛し酒を愛した酒脱磊落の方でありました

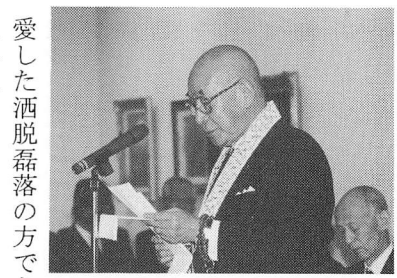
個人の名を冠する美術館はそう数ありません

生涯の労作の大部分を故郷に飾り地域のみならず東北各県はもとより全国よりこの地に歩を運び美しい大自然の中の当館を愛でる老若は一段と増えつつあります

美を育て特に若い青の年に純粋な刺激を与えつつある現状はまことに嬉しい限りであります

この美術館が名前のように宇宙一杯のいのちの画業を中心として美の世界が生成発展して行けますようにそして町と共に永久に栄えるよう若い芽が育ち第二の鷹山画伯が誕生することを祈って追悼のことばと致します

優に優しいひばり、ちどり、くるみの三姉妹、増子様共々の御健勝を祈って追悼のことばと致します



弔辞を読み上げる
当財団の青山浄晃理事長

■弔電■

鷹山宇一さんとは半世紀に近いおつき合い、長寿を全うされたとはいえ、心淋しき極みです。
ひばりさん、心を落とさず頑張ってください。
折をみて七戸に伺い、父上の在りし日を偲びましょう。

鷹山宇一記念美術館
名誉顧問・写真家
秋山庄太郎　殿

鷹山さんは七戸町名誉町民として顕彰され、その後、記念美術館が設けられました。そこに常設展示される数々の珠玉の作品が、今後も訪れる人々に語りかけるだろうことを思うと、画家としての鷹山さんは、まれにみる果報者だったのかもしれない。
もって瞑すべき生涯と言えるだろう。
心からご冥福をお祈りいたします。

ブリヂストン美術館館長
富山　秀男　殿

平成9年に、春季二科展を開催させて頂いた折り、鷹山さんのお名前を冠した美術館を訪れることができました。鷹山さんの深い透明感のある色彩の原点に触れた思いがして、深く感動しました。
戦後の苦しい時、画家として頑張れるか不安な時、二科会の先輩として温情あふれるご指導を頂いたこと、今も忘れることができません。
生前のご厚情に深く感謝し、ありし日を偲び、謹んで哀悼の意を表するとともにご冥福を心からお祈りします。

社団法人二科会常務理事
日本芸術院会員
織田　廣喜　殿

先生のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します。
日本の希有な幻想画家と言われ、二科会にあって独自の世界を築かれた先生のご冥福を心からお祈りいたします。

横浜美術館　学芸部長
武田　厚　殿

突然の訃報に驚きを禁じ得ません。鷹山先生は、戦後の二科会再建の中核として東郷青児とともに尽力され、今日の名誉ある二科会の礎を築いてくれました。この芸術は、深く純粋、国際的にも高く評価されて内外ともに画壇にも各分野にも影響し、鷹山芸術として光り輝きました。そして、ついに立派で素晴らしい鷹山宇一記念美術館として後世に残してくれました。後続の我々は先生の遺志を受け継いで、今後の二科会の更なる発展のために頑張って参りますので、ご安心下さいますように。
どうもありがとうございました。

社団法人二科会常務理事
日本芸術院会員
鶴岡　義雄　殿

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。
会いたかった。

洋画家
奈良岡　正夫　殿

鷹山宇一先生のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り申し上げます。

平山郁夫美術館
館長　平山　吉雄　殿

ご尊父様のご逝去の知らせに、絵筆を握り、キャンバスに向かう元気な頃の姿が思い出され、痛惜の念でいっぱいです。
ロマンチックな遊蝶花、幻想的なまでの風景。最後まで画面に美しい夢物語を描き続け、多くのファンに感動を与えてくれました。
画壇に新しい風を吹き込んだ偉大な画業と業績は美術愛好家の思い出にいつまでも残ることでしょう。
第51回東奥賞特別賞を受賞された社団法人二科会の重鎮鷹山宇一画伯の安らかな旅路であれと、ご冥福をお祈りいたします。

東奥日報社
社長　佐々木高雄　殿

ご尊父様のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申しあげます。
花と蝶をモチーフに独自な幻想世界を追求、二科会の重鎮として創作を続け、日本洋画史に新風を吹き込むとともに、地元の芸術文化の向上にも貢献されました。
第26回デーリー東北賞を受賞された鷹山宇一画伯のご冥福を心からお祈りいたします。

デーリー東北新聞社
社長　新山　博昭　殿

ご尊父様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

版画家　浜口陽三　殿

鷹山宇一先生のご逝去を悼み、会員一同、謹んでお悔やみ申しあげますとともに心からご冥福をお祈りいたします。

鷹山宇一記念美術館
友の会一同

その他、各界各層からたくさんの弔電を戴いておりました。

■遺族代表挨拶■

鷹山ひばり

御遠路かつ御多用中にもかかわらず、父鷹山宇一のみたまを弔う本日の式典にご列席を賜りましたことを遺族を代表いたしまして心より厚く御礼申し上げます。
10月19日の火曜日、依頼されていた作品の何枚かを完成させたあと、口から出血すると母に申し始めました。
翌日、自宅隣に住んでいる口腔外科教授に見て頂き消毒をしてから休みましたが、次の日の木曜日、自分でも具合が悪いと思ったのでしょうか、いつも入院する至誠会病院に自ら希望をして行きました。
お昼に救急車で到着したとたん口の中がはれはじめました。
気管の確保をしてすぐ検査に入り、その結果黒色腫という悪性の皮膚ガンで余命あと数時間、とのことで驚いた妹から連絡があったのは、その21日の午後3時でした。
帰京して、付き添っている妹たちに話を聞きますと、ガン末期も末期、今日まで苦しむことなく普通の生活を送れていたとはただ奇跡だと皮膚科の部長先生の第一声だったとのことでございます。
「多分20年位前から兆候はあったと思われる。しかしその時発見して手術をしていたら90過ぎのこの歳まで仕事はおろか命さえなかっただろう、そして又、私の父だったら延命手段は選ばずただ静かに見送りたい」との話を伺い、家族一同心に落ち着きをとりもどし覚悟を決めることができました。
天のおぼし召しにより、4日間、家族がそれぞれ決別をできる刻を与えられ、特に男の孫二人は、寝ずの看病をすることができました。

25日の昼過ぎから、刻々と容体が変化をいたし、13時14分家族皆に手を握られて、いささかの苦しみもなく眠るが如き安らかに旅立っていきました。

逝く直前まで絵筆を握り、天命を悟ったすがすがしい大往生で、90年と10ヶ月の太く長い人生でございました。

作家といたしましては、若い時から才能を評価して下さる方々に恵まれ、特に戦後は二科展を発表の場として活動して参りました。

生まれ故郷のこの七戸町に自分の名がついた美術館が建設されましたことを、父は何よりも誇りにしておりました。

美術館完成の折りには、「世界中に、あまたの画家たちが存在する中で、自分の名が賦与された美術館をもつ作家は、はたしてどれだけいるか、このことは、老骨の私にとってなによりの名誉であり、どんな勲章を授与されるよりも価値のあることでした。」と、喜び語っております。又、昨年現役作家としては名誉ある卒寿展を開催でき、人生の締めくくりに地元の東奥日報とデーリー東北新聞社より大きな賞を拝受いたし最後に大輪の花を咲かせて頂きましたことは、父は無論のこと私共家族にとりましても大きな喜びでございました。

家庭におきましては、鷹山家の家長としていつでも父が物事の中心で動いており、孫達は皆、祖父でありますます父を心から尊敬をし、敬愛して大切にしておりました。

絵描きでは飯が食えないと言って晩婚でございましたが、お医者様に恵まれ、特に後年お父上が槇哲夫博士と同期生で三本木生まれの松浦清勝先生に巡り会い、主治医として何度も命を助けて頂き昨年7月には金婚式を迎えることもできました。愛してやまなかった孫達を最期の4日間、片時も離さずに側に付き添わさせさぞかし満足であったことと存じます。父の臨終に際し、私共家族が誰一人欠ける事なく見送る事ができましたのは、誠に幸せでございました。歳の順番に別れて行く事は、深い悲しみの中にも残された者達に心の平安と癒しを与えてくれております。

天から与えられた限りある命を、どのように全うしなければならないかを若い孫達に教えてくれた、父の最期の無言の作品の前で私共はいたずらに悲しむ事なく、人間としての尊厳と誇りを持ち続けた父をいつまでも忘れずに、母を大切にして過ごして参ります。

絵筆一本の正々堂々の人生を歩ませて戴きましたことを父に代わりまして心より御礼申し上げます。有り難うございました。

二科会彫刻部会員 吉野毅先生が鷹山画伯のデスマスクを制作

二科会彫刻部会員で当財団理事でもある吉野毅先生が、鷹山画伯のデスマスクを制作されました。その依頼の経緯や制作過程についての文章が寄せられましたのでご紹介いたします。

一九九九年十月二十五日

吉野　毅

午後9時電話のベルが鳴る

「ひばりです、今日の昼過ぎ父が他界しました。突然でしたけど家族皆で別れができ大往生でした。」

そして

「唐突ですが、先生にデスマスクを作って戴きたいのですが―」

「わかりました。用意するものがありますので10時頃伺います。」

心の整理がつかないまま石膏屋にデスマスクの型をとる材料を依頼する。

午後10時5分先生宅に着く。

緊張してベルを押した。玄関に入るといつもの顔ぶれが出迎えてくれ何故かホッとする。大きく深呼吸をして、安堵した顔で横たわっている先生に無言で挨拶をしていると、珍しいものでも見るように孫たちが集まってきた。

デスマスクを作る工程を皆に一通り説明をして準備にとりかかると、一番年嵩の孫、雄介が助手を買って出た。

「お前が一番心配を掛けたのだからそれではしっかり手伝え。」と言い渡す。

その他の孫やその友人たちはベットの上に座ったり、先生の側を取り囲みながら、これから行われようとしている、多分生涯で一度しかない体験を固唾を飲み込んでじっと待ち構えている。

しかし何か変だ、この明るさは？

そうだ！デスマスクの型をとる時の鉄則を思い出す。

”人払いをすること“しかしもう遅い・・・。

興味津々の熱気が直に伝わってくる。

「先生、ちょっと冷たいけれど、しばらく我慢をして下さい。」と心の中でことわりをいれ石膏で少しずつ凹凸を消していく――。

午後10時45分　先生の顔が石膏で完全に覆われる。

急に胸が痛くなり、込み上げてくるものを感じる。悲しみなのか、感動なのかよく分からない。

存命中より自分の名が冠った美術館が出来、卒寿展を開き、郷土の人々に敬愛され逝く寸前まで絵筆を握っていた羨ましい限りの人生を歩んだ作家、又、決して多くはいないであろう「デスマスク」まで持つ先輩に、改めて嫉妬にも似た思いでもあった。

石膏が乾くまで主のいないアトリエにそっと入る。来年の展覧会用の作品が数点立てかけてあった。

あの鷹山ブルーと言われる透明感溢れる静謐な空間を表現するために使用していた筆。

種類別に几帳面に整理された手作りのスクラップブック。乱雑な中にも主が座るべき場所に座ったとたん、緊張感で身震いをする。

午後11時30分

顔を傷めずに石膏を剥がせるよう念じながら雄介と共に指先に力をこめる。

格闘すること数十秒。背中に冷や汗が数滴すべり落ちる。

顔を綺麗に整えることは家族にまかせ、デスマスクの型と先生の絵描き魂を一緒に紙袋にそっと入れた。

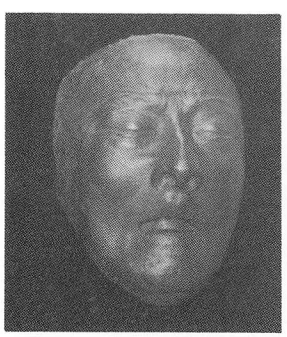
10月26日午前0時20分

「今晩だけ先生の魂を預からせて戴きます。」しっかりと胸に抱きしめて、深夜の秋風を受けながら帰路につく。

途中紙袋の中から先生の声が聞こえてきた。

「絵描きは目と利き腕さえ動けば一生続けられるんだよ。」

※デスマスク（death mask）人が息を引き取った直後、その顔を型にとりそれに石膏を流し込んで作った仮面



吉野毅先生制作の
鷹山画伯デスマスク

会員登録の更新について

平成6年11月の設立より、会員の皆様には一方ならぬご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、いよいよ新年を迎えるに当たり、会員の皆様には引き続き会員登録をご更新いただき、美術館の事業へのご協力及び相互学習に取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

平成12年度の更新手続きは、新年1月4日から美術館窓口、または、同封の郵便振込用紙による方法にて随時受付いたします。

当会の事業、美術館、そして芸術に興味をお持ちのご友人にも是非お知らせいただきますよう、また、今後とも友の会並びに美術館に対して、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、会員の種別と会費並びに特典については、これまでと同様です。下記をご参照ください。

会費規程

（規約第5条）

■一般会員■

会費　年額3千円

特典

・無料入館券3枚

・入館料、ミュージアムグッズ（一部対象外）割引

・会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡

■特別会員（個人）■

会費　年額1万円

特典

・会員証の提示により入館料無料（本人と同伴者1名まで）

・入館料、ミュージアムグッズ（一部対象外）割引

・会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡

・新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊贈呈

■特別会員（法人）■

会費　年額2万円

特典

・会員証の提示により入館料無料（本人と同伴者3名まで）

・入館料、ミュージアムグッズ（一部対象外）割引

・会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡

・新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊贈呈

※友の会規約については、会報1号に掲載しております。美術館に用意してございますので、ご入り用の方はどうぞお申し付け下さい。

お問い合せ

友の会事務局

鷹山宇一記念美術館

TEL 0176（62）5858

お便りをお寄せ下さい

鷹山宇一記念美術館友の会では、会員の皆様の自由なご意見・ご感想を募集し、会報にてご紹介して参りたいと思います。

思い出深い絵、大好きな絵、お薦めの、また心に残った国内外の美術館について、そのほか友の会、美術館へのご質問やご意見・ご感想などを、800字程度で自由にお書き下さい。

詳しくは事務局までお気軽にお問い合せ下さい。

【原稿送り先】

郵便番号、住所、氏名、電話番号をお書きのうえ、

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

「鷹山宇一記念美術館友の会事務局」まで

※なお、会報編集の都合上、原稿に一部修正を加えることがあります。ご了承下さい。

美術館日誌より

【9月】

◆「鷹山宇一の素描展」最終日・会期中入館者2,430名（5日）◆展示替え作業のため臨時休館（7～10日）◆「前田真三写真展北海道の大地と自然」特別内覧会開催（10日）◆「前田真三写真展北海道の大地と自然」開催（11日～10月11日）◆友の会油絵教室開催（12日）◆火曜サロン開催（14日）◆青森銀行新町支店78名様来館（14日）◆前田真三写真展告知でFM青森に生出演（14日）◆友の会油絵教室開催（19日）◆富岡市立美術博物館学芸員伊藤氏来館（24日）◆青森支部美容組合46名様来館（27日）◆鷹山館長七戸町の柏葉館で講演会（29日）

【10月】

◆青森県写真連盟主催モデル撮影会表彰式を開催（3日）◆前田真三写真展開催に伴い、丹溪から前田美知江氏（前田真三氏奥様、晃氏（ご子息）、拓真館から今野榮喜館長来館（7日）◆十和田市読書団体連絡協議会22名様来館（8日）◆「前田真三写真展北海道の大地と自然」最終日・会期中入館者2,869名（11日）◆東北美術館会議に鷹山館長出席（盛岡市／14・15日）◆友の会油絵教室開催（17日）◆火曜サロン開催（19日）◆青森県あすなろ尚学院9名様来館（19日）◆青森県議会水産商工観光労働委員会14名様来館（21日）◆友の会油絵教室開催（24日）◆鷹山宇一画伯ご逝去（25日）◆東京都中野区の天徳院にて鷹山画伯の通夜（27日）、葬儀（28日）がとりおこなわれる◆大鰐町中央公民館21名様来館（27日）◆大平納税組合42名様来館（30日）◆NHK文化センター八戸30名様来館（31日）

【11月】

◆浪岡町中世の館65名様来館（3日）◆鷹山宇一画伯に哀悼の意を表し、美術館無料開館と一般の皆様からの献花・記帳を受け付け（4日～14日）◆友の会油絵教室から自主サークルとなった「七彩会」第1回油絵教室開催（7日）◆火曜サロン開催（9日）◆岩手県戦没者遺族会25名様来館（10日）◆下北社会保険委員会20名様来館（11日）◆展示替え作業のため臨時休館（16～19日）◆「青森県／美術館コレクション展」特別内覧会並びに、青森県美術館館長予定者の黒岩恭介氏のギャラリー・トークを開催（19日）◆「青森県／美術館コレクション展」開催（20日～28日）◆手塚プロダクションから3名来館（24日）◆「青森県／美術館コレクション展」最終日・会期中入館者603名◆友の会研修旅行「スペイン美術紀行」旅行説明会開催（28日）◆展示替え作業のため臨時休館（30日～12月9日）

美術館からのお知らせ

休館日のお知らせ

12月30日（木）～1月3日（月）　年末年始休館

2月1日（火）～2月10日（木）　展示替え準備のため休館

編集後記

美術館開館5周年、そして、友の会結成5周年というひとつの節目の年を迎えた本年。これを記念した様々な事業が実施される中、鷹山画伯の突然の訃報に接することとなりました。悲喜こもごもの、激動の1年でありました。

皆様にとりまして本年はどのような1年だったでしょうか。

21世紀も皆様のご協力・ご指導をよろしくお願い申し上げます。